

TreeFoam-2.36の紹介

ubuntu-1510、OpenFOAM-3.0.0への対応
機能アップ分も含む。

TreeFoam-manual.pdfの内容を再確認して、TreeFoamの内容を修正

OpenCAE岐阜勉強会

15/12/19

藤井

1. ubuntu-1510への対応

起動時に警告が発生する為、修正。

バージョンアップにより、「-t」オプションが廃止された為、
「--name」オプションに変更。

このオプションは、ubuntu-0910の時から存在している為、
旧バージョンでもエラーは発生しない。

```
gnome-terminal -t TreeFoam --geometry=80x10-0-0  
--zoom=0.9 --hide-menubar -x ./treefoam-2.36
```

↓

```
gnome-terminal --name=TreeFoam --geometry=80x10-0-0  
--zoom=0.9 --hide-menubar -x ./treefoam-2.36
```

2. OpenFOAM-3.0.0への対応

2-1. blockMeshDictの保存先が constant/polyMesh → systemフォルダに変更

tutorialsからcaseをコピーして
snappyHexMeshでメッシュを作成時
エラーが発生。

TreeFoam側では、
OF-3.0.0以上の場合、blockMeshDict
の有無をsystemフォルダ内から確認、
コピーする様に変更。



2-2. mapFieldsのmethodオプションの内容が

4/6

cellVolumeWeight

direct

mapNearest



cellPointInterpolate

interpolate

mapNearest

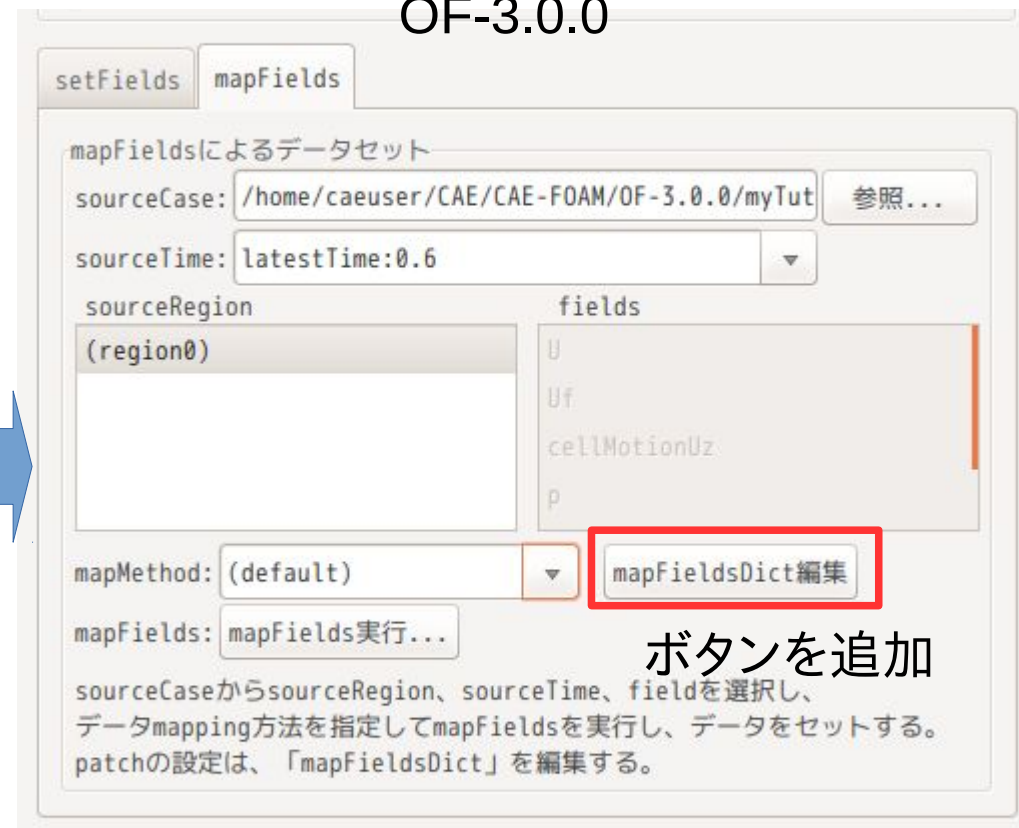
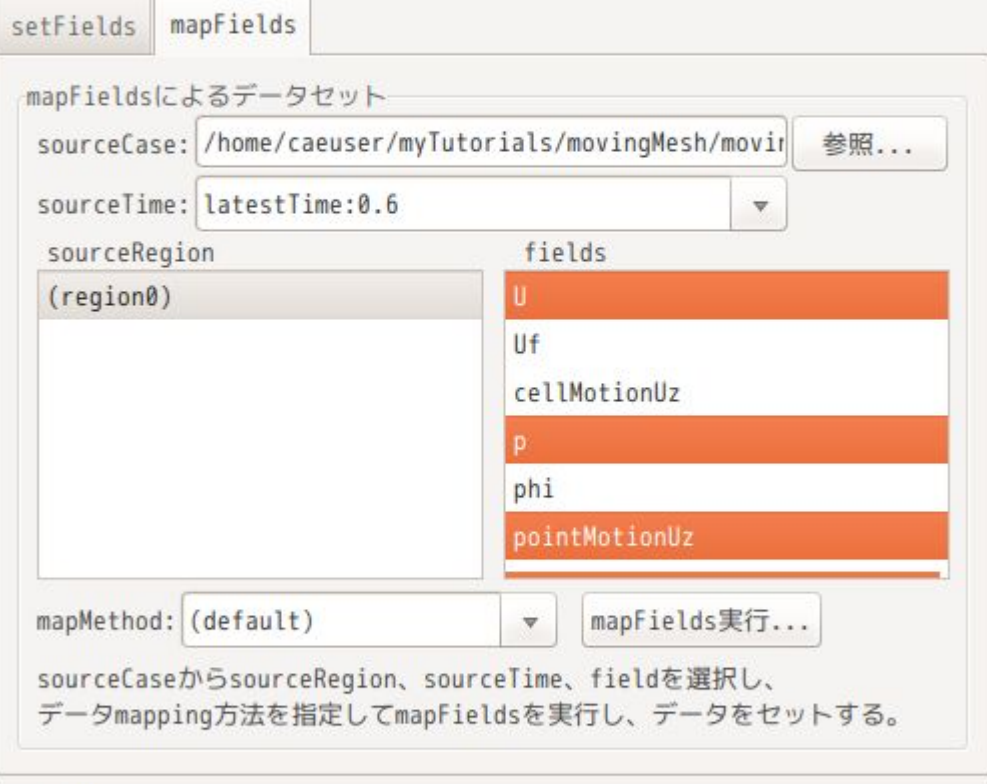
に変更。 fieldオプションが廃止。

OF>=2.1.0、>=2.3.0、>=3.0.0で処理を分けている。

Dialogに「mapFieldsDict編集」ボタンを追加

OF-2.4.0

OF-3.0.0

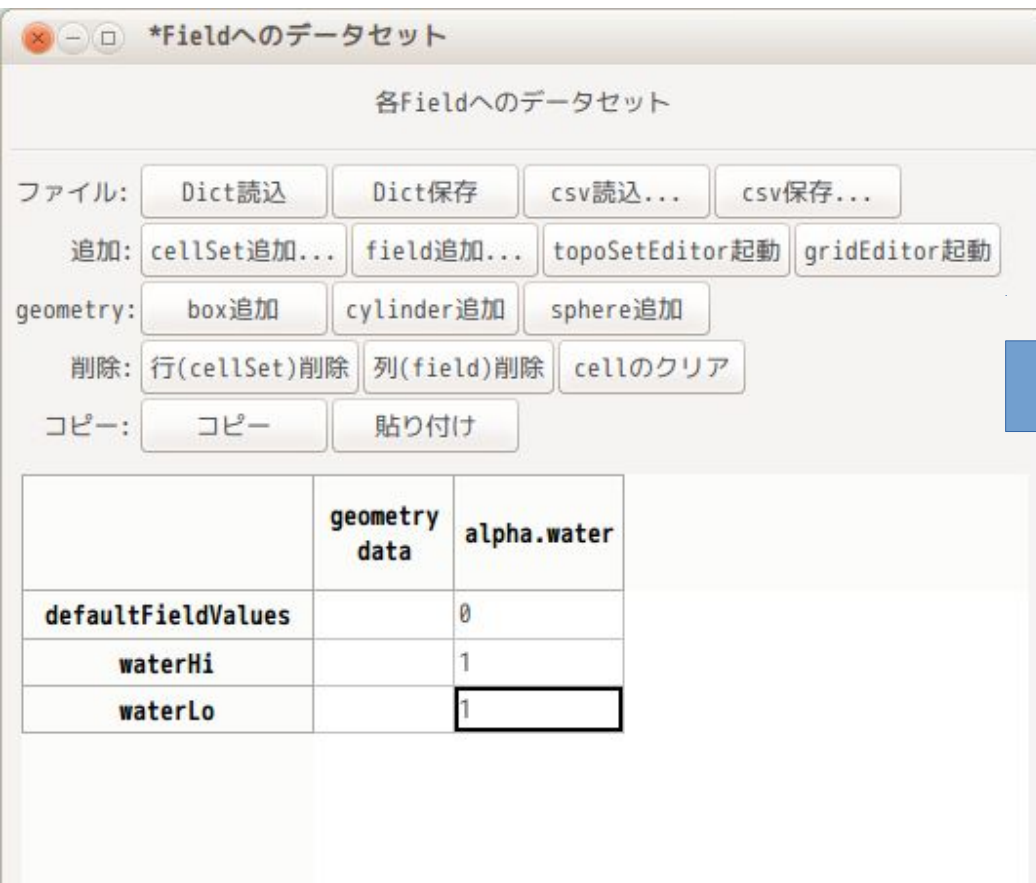


ボタンを追加

3. 機能アップ

2-3. setFieldsDict作成画面上にボタンを追加

データ作成後、setFieldsが即実行できるボタン「Dict保存・実行」ボタンを追加。



ubuntu-1510、OpenFOAM-3.0.0の組み合わせで、「TreeFoam-manual.pdf」の内容に基づき確認した結果、
TreeFoam起動時
snappyHexMeshによるmesh作成
mapFieldsによるデータ・セット
でエラーが発生した為、この部分を修正（追加）。
ついでに、若干の機能アップも追加。

これに伴い、「TreeFoam-manual.pdf」も修正。
修正方法は、基本がOF-2.4.0で、異なる部分のみ、OF-3.0.0を追記。

最新版のTreeFoam

treefoam_2.36.151212_all.deb	TreeFoam本体
treefoam-doc_2.36.151212_all.deb	TreeFoam-manual
treefoam-dexcs_2.36.151212_all.deb	DEXCS用のTreeFoam本体